



その上で、高機能化や他の学習空間との有機的な連携を図りながら、個人やグループでの活動ができる自由度の高い空間づくりが望ましいとしています。

また、コンピューター室の面積や形状については、将来的なネットワークの更新や増設などを考慮し、情報機器や机、無線 LAN などを使いやすいよう配置できる空間にすることを求めています。

さらに、教材・教具等の収納や教員の準備室の確保、児童・生徒のプログラム作成や情報関連資料の閲覧のための空間を設置することが重要です。

加えて、ICT に対応した他の学習関係諸室との役割分担が重要です。

小学校段階でのプログラミングに関する学習活動については、教育課程外の学習活動でも、児童の興味・関心にあわせて、学習機会を提供できることが望ましいとしています。

そのため、より発展的な学習に取り組む意欲を持った児童に対応するため、コンピューター教室に高性能な端末の整備をすることが考えられるとしています。

STEAM 教育を積極的に推進する上でも、ファブスペースなどの整備も求められています。

文部科学省は、これらを踏まえ、中長期的観点から教育環境を充実させることを要請しています。

▼GIGA スクール構想に基づく 1 人 1 台端末環境下でのコンピューター教室の在り方について  
<https://www.mext.go.jp/content/000207291.pdf>

◇◆ トピックス (2) .....

文部科学省「令和 4 年度 教育委員会における  
学校の働き方改革のための取組状況調査」を公表

.....◆◇

文部科学省は 12 月 23 日、「令和 4 年度 教育委員会における  
学校の働き方改革のための取組状況調査」を公表しました。

この調査結果は、1,794 の教育委員会が所管する、  
各学校の働き方改革に対する取り組み状況について回答をまとめたものです。

調査結果によると、月の時間外勤務が 45 時間以下の教職員の割合が、

令和元年度に比べ、小中校それぞれで約 10%増加しました。  
しかし、月 45 時間以上の時間外勤務をしている教職員の割合が、  
小学校は 36.9%、中学校は 53.7%、高等学校は 36.6%と、  
依然として高いことが分かりました。

「教師の業務だが、負担軽減が可能な業務」のうち、  
「授業準備について、教師をサポートする支援スタッフの参画を図っている」と  
回答した市区町村は、68.0%に留まりました。

また、「学習評価や成績処理の補助的業務について、教師をサポートする  
支援スタッフの参画を図っている」と回答した市区町村は、38.5%でした。

文部科学省は、国の今後の取り組みとして、以下 5 点を掲げています。

- ・ 教員業務支援員などの支援スタッフの充実、校務のデジタル化などの  
学校 DX の推進について、引き続き、総合的かつ着実に取り組みを進める。
- ・ 客観的な勤務実態の把握がすべての市区町村で行われるよう、  
進捗状況等をフォローアップするとともに、支援スタッフの補助金交付時に  
客観的な勤務実態の把握を前提条件にする。
- ・ 働き方改革の推進により、勤務状況の改善が見込まれる学校を指定し、  
民間事業者などの専門的な知見による伴走型の支援を行う。
- ・ 改正給特法を踏まえた勤務時間の上限方針策定をフォローアップする。
- ・ 本調査の継続により、各取り組みのフォローアップと取り組み事例の横展開を図る。

#### ▼令和 4 年度 教育委員会における学校の働き方改革のための取組状況調査【結果概要】

[https://www.mext.go.jp/content/20221223-mxt\\_zaimu-000026953\\_6.pdf](https://www.mext.go.jp/content/20221223-mxt_zaimu-000026953_6.pdf)

■□□■□□■□□■□□■□□■□□■□□■□□■□□■□□■□□■□□■□□■□□■

□【2】 情報セキュリティ事故ニュース ～ささいなミスが事故を招く～

■□□■□□■□□■□□■□□■□□■□□■□□■□□■□□■□□■□□■

★☆ 情報セキュリティ事故の発生状況（2023 年 1 月 11 日調査）

- ☆★ (1) 紛失・置き忘れ：11 件 (2) 誤掲示：3 件 (3) 誤送信：3 件  
(4) 設定ミス：2 件 (5) 不正アクセス：2 件 (6) 誤配布：2 件  
(7) 誤廃棄：1 件

☆★ >> <https://school-security.jp/leak/>

2022 年 12 月 9 日～2022 年 12 月 28 日に合計 24 件の事故が発生しました。  
情報セキュリティ事故の内訳と概要（都道府県名、公表日、組織区分、  
漏えい経路・媒体、個人情報数）は以下の通りです。

(1) 紛失・置き忘れ

愛知県 2022年12月9日 市立小学校 書類 51件  
大阪府 2022年12月9日 市立小学校 書類 1件  
栃木県 2022年12月9日 市立中学校 USBメモリ 200件  
静岡県 2022年12月12日 県立高等学校 書類 延べ194件  
埼玉県 2022年12月15日 市児童クラブ 書類 1件  
静岡県 2022年12月15日 市立小学校 書類 25件  
大阪府 2022年12月16日 市立小学校 書類 36件  
広島県 2022年12月20日 国立中学校・高等学校 USBメモリ 延べ1,011件  
山梨県 2022年12月22日 市立保育園・保育所 USBメモリ 延べ25件  
新潟県 2022年12月26日 小学校 USBメモリ 6件  
宮城県 2022年12月28日 町立中学校 書類 6件

(2) 誤掲示

北海道 2022年12月9日 市立中学校 書類 7件  
新潟県 2022年12月9日 国立大学 ホームページ・Web 25件  
大阪府 2022年12月13日 市立小学校 インターネットサービス・アプリ 13件

(3) 誤送信

茨城県 2022年12月12日 県立特別支援学校 電子メール 6件  
京都府 2022年12月20日 公立その他 電子メール 247件  
茨城県 2022年12月20日 その他 電子メール 約330件

(4) 設定ミス

鹿児島県 2022年12月17日 県教育委員会 インターネットサービス・アプリ 264,000件  
東京都 2022年12月27日 私立大学 インターネットサービス・アプリ 延べ1,370件

(5) 不正アクセス

熊本県 2022年12月13日 県立大学 電子メール 延べ5,288件  
山形県 2022年12月16日 国立大学 システム・サーバー 1,059件

(6) 誤配布

大阪府 2022年12月9日 市立小学校 書類 2件  
愛知県 2022年12月15日 県立高等学校 インターネットサービス・アプリ 119件

(7) 誤廃棄

宮城県 2022年12月28日 町立中学校 書類 11件

※以下の参考サイトをもとに、学校、公的教育機関、関連組織で発生した情報セキュリティ事故の

内訳と概要を掲載しております。事故の詳細は、上記に記載されている項目を検索するなどして、ご確認をお願いいたします。

参考サイト：

名古屋市公式ウェブサイト／大阪市ホームページ／サイバーセキュリティ.com／静岡県ホームページ／

草加市社会福祉協議会ウェブサイト／静岡市ホームページ／NHK NEWS WEB／Security NEXT／

Yahoo!ニュース／朝日新聞デジタル／見附市ホームページ／河北新報 ONLINE NEWS／函館市公式ホームページ／

ScanNetSecurity／読売新聞オンライン／茨城新聞クロスアイ／茨城県ホームページ／373news.com／産経ニュース など

■□□■□□■□□■□□■□□■□□■□□■□□■□□■□□■□□■□□■□□■□□■

□【3】 学校 ICT・セキュリティコラム

■□□■□□■□□■□□■□□■□□■□□■□□■□□■□□■□□■□□■

---

◆GIGA で新たな学びのステージを広げよう◆

ISEN 委員長 山西 潤一

---

新年、明けましておめでとうございます。

GIGA スクール構想も 3 年目を迎え、学習道具としての一人 1 台端末の活用も定着してきているかに思われます。

しかしながら、令和 4 年度の全国学力・学習状況調査結果から見れば、自分で調べる場面で ICT 機器を活用している学校の割合は、毎日活用しているのは 2 割程度、週 3 回以上を合わせてようやく 6 割程度だといいます。学習道具としての日常的な活用はまだままだのようです。

先生方には、ICT 利活用にあたって、いかに効果的に活用するか、どのような成果が得られたのかという外圧からの問いが重くのしかかっているような気がしてなりません。

どの教室にも黒板があるのに、その効果的な活用や効果を問題にすることはありません。最初に導入されたときには、そんな議論があったのかもしれませんが、一人 1 台端末は、自分で調べ、まとめ、伝える道具です。

R.N.Puentedura の SAMR モデルにあるように、最初はノート代わりに使えばいい。分からないことは百科事典代わりにネットを活用すればいいのです。

まずは慣れることから始め、使っていくうちに、クラウドを活用した協働作業など、うまい使い方が増えていく。そんな日常使いで、情報活用能力のスキルも高まるのです。

さて、OECD の 2030 年の教育の在り方を展望する「Education 2030 プロジェクト」では、予測困難で不確実、複雑で曖昧な未来社会を生きる力として、「自ら目標を設定し、振り返り、責任を持って行動する」変革へのコンピテンシーを持ったエージェンシーを育てる教育の必要性が謳われています。

自らの学びの航海を自らの手で舵取りしていく力です。

従来の知識をインプットする一斉授業型から、個々の児童・生徒が学んだ成果を社会に生かす課題に取り組むアウトカム型へ、履修主義から修得主義への転換です。

個別最適化のキーワードのもと、個々の児童・生徒は課題に向かって、

それぞれが持った興味関心の視点から解決に取り組めます。

互いの解決プロセスがクラウドで可視化され、関連する仲間での協働も進みます。

グローバルコンピテンスや協働問題解決能力がますます求められる社会にあって、

教育の方法も変わらざるを得ない時代になってきているのです。

先頃のサッカーワールドカップは、日本はもとより世界中を熱狂させました。

寝不足が続いた中で見ていたテレビ中継で、優勝したアルゼンチン代表の

メッシがボールを蹴る姿や、左右に走るアルゼンチンのFWやMFの姿を、

テレビは上から俯瞰して全体を写すので動きが実によく分かります。

でも、試合をやってる選手はどうしてそれがわかるのかなと思ったものです。

ここで、スペインでコーチをされた佐伯夕利子氏の「教えないスキル」という興味深い本がありました。

子供たちの指導で重要なことは、「指導者はファシリテーターであれ。主体は子供たちだ」といいます。

変化に対応し、流れるようなパスワードやスペースを作るための動きは、

時間、空間、スピード、状況など不確定な要素を瞬時に認知し行動に移す認知能力だそうです。

その能力を伸ばすには、自らの経験や知識を伝達するのではなく、

常に、子供自身に自らの行動を振り返り、考えさせることだと言われています。

答えが決まった問いではなく、なぜ、どうしてといったオープンクエスチョン

なるべく心がけるのだそうです。まさに、次代に求められる自律的な学びを

育てる教師の問いに通じる内容です。

GIGA スクール構想は、単なる ICT 利活用教育の推進ではありません。

次代が求める「自律的に学ぶ力」「変革へのコンピテンシー」を持って、

自らの学びの海を逞しく航海していける子供たちを育てる教育へのパラダイムシフトです。

志ある皆さんと共に、この新たな学びのステージを広げていきたいと思います。

どうぞ本年もよろしくお願いいたします。

▽ 学校 ICT に精通した先生方の書き下ろしコラム

>> <https://school-security.jp/column/>

……◆◆ 【最新版】「個人情報漏えい事故の発生状況調査報告書」を公開 ◆◆……

ISEN では、11月18日に「令和3年度 学校・教育機関における個人情報漏えい事故の発生状況」調査報告書（第2版）を Web 公開しました。

>> [https://school-security.jp/leak\\_all/](https://school-security.jp/leak_all/)

---

<事務局>

教育ネットワーク情報セキュリティ推進委員会 (ISEN)

〒105-0013 東京都港区浜松町 1-30-5 浜松町スクエア 2 階 (株式会社 JMC 内)

<https://school-security.jp/>

---

▽「教育の情報化や学校情報セキュリティ対策」にご興味をお持ちの方が  
いらっしゃいましたら、本メールマガジンをご紹介ください。

メルマガ登録フォーム：<https://fs220.xbit.jp/y592/form2>

▽ 個人情報の取り扱いは下記リンクをご参照ください。

<https://school-security.jp/privacy>

▽ お問い合わせ・配信停止・メールアドレスの変更は、  
下記フォームよりご連絡ください。

<https://fs220.xbit.jp/y592/form3>